



제10회

학봉상 시상식

언론보도부문
우수상 수상작

現場へ！朝鮮通信使にかける夢
(현장으로! 조선통신사에 거는 꿈)

石合力(이시아이 쓰토무)

朝日新聞(아사히신문) 편집위원(국제관계 및 외교)


朝日新聞

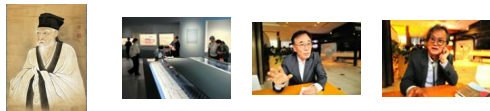
朝鮮通信使が築いた友好の知恵 歴史に学び、未来に生かすには

有料記事

編集委員・石合力 2025年8月25日 17時00分



ソウル歴史博物館の特別展に展示された朝鮮の僧侶・松雲大師惟政の肖像画 = 東国大学博物館提供 



現場へ！ 朝鮮通信使にかける夢 (1)

朝鮮王朝から江戸幕府に派遣された外交使節団・朝鮮通信使。その往来で築いた友好と親善の歴史に学べないか——。韓国のソウル歴史博物館で通信使の書画などを一堂に展示する展覧会が4月から6月まで開かれた。

国交正常化60周年に合わせて、日韓両国の関係者が尽力して実現した通信使特別展「心のつきあい、余韻が波のように」。ユネスコ「世界の記憶」(2017年)に登録された日韓双方の主要作品を含む128点が集まった。慰安婦や徴用工問題への対応で、日韓関係がこじれるなか、首都ソウルでの通信使展開催は実に39年ぶりだった。

会場に入ってすぐの展示室に、長いあごひげをたくわえた僧侶の肖像画があった。松雲大師惟政(ユジョン)(1543~1610)。豊臣秀吉が朝鮮を侵略した文禄・慶長の役(1592~98、壬辰(じんしん)戦争)の際、義僧兵を組織して戦った朝鮮側の英雄だ。

徳川家康との会談に臨んだ松雲大師

大師は1605年、京都・伏見城で將軍徳川家康との会談に臨んだ。国交の回復に向け、侵略を謝罪する日本側からの国書と、連行された陶工や女性、子どもら被虜人(ひりょにん)と呼ばれる捕虜の帰還を要求した。数万人とされる被虜人のうち、1300人以上を連れて帰国

し、外交交流の再開につながった。残った陶工らは、有田や唐津などで陶磁器産業の発展に寄与した。

江戸時代の通信使はその後、1607年から1811年まで計12回派遣されるが、最初の3回は、国書の回答と被虜人の帰還を求める「回答兼刷還（さっかん）使」と呼ばれた。「不俱戴天（ふぐたいてん）」の関係だった日本との交流が本格的に花開くのは、4回目以降である。

会場には、通信使の中継地对馬藩に仕えた儒学者雨森芳洲（あめのもりほうしゅう）（1668～1755）が書いた外交指南の書「交隣提醒（こうりんていせい）」も展示された。彼が説いた「互いに欺かず、争わず、真実をもって交わる」とする「誠信外交」は、現代に通じる外交理念として知られる。

近代韓日関係に詳しいソウル市立大の名誉教授鄭在貞（チョンジェジョン）（73）は、ロシアのウクライナ侵攻や中東での紛争を念頭に通信使の意義をこう語る。

「国境を接する国同士がこれほど長期間、戦争をせずに平和に交流した例は、世界史において他にない。通信使の価値と教訓は世界が共有すべき貴重な公共の財産だ」

被虜人らの帰還から友好に発展した歴史を念頭に「日朝の拉致問題を解決する知恵」を探れないかとも語る。

特別展が「親日」と誤解される恐れ

気宇壮大な鄭の思いとは別に開幕前、関係者に激震が走った。日韓関係の改善を進めた保守系の大統領尹錫悦（ユンソンニョル）が昨年12月に突然、「非常戒厳」を宣布し、国会に弾劾（だんがい）訴追されたのだ。憲法裁判所が彼の罷免（ひめん）を宣告したのは、特別展開催の3週間前だった。

歴博館長の崔秉九（チェビョング）は、「韓日関係が不安定な状態での開催になった。未来志向の関係を願っていても、その意図がねじ曲げられて伝わる可能性はないか」と、事前の広報を極力控えることにした。大統領選で対日関係が政争の具になれば、特別展が「親日（チニル）」だと誤解されかねない。韓国で「親日派（チニルパ）」とは今なお、日本植民地時代の協力者や、そのイデオロギーを肯定する人々を指す言葉である。

通信使の知恵に学び、未来に生かせないか。日韓双方の夢と思いをたどった。=敬称略

この記事を書いた人



石合力
編集委員



専門・関心分野

国際政治（核問題、中東など）、芸術と社会

朝日新聞のデジタル版に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.

朝日新聞

増える訪日客、変わる対日感情 韓国と日本に大切なのは「疎通」


有料記事

編集委員・石合力 2025年8月26日 17時00分

コメントプラス

成川彩さんのコメント



国王に扮した講師から、通信使について学ぶ金華小学校の児童ら＝ソウル、石合力撮影 



現場へ！ 朝鮮通信使にかける夢 (2)

ソウル歴史博物館は、ソウル中心部の官庁街光化門（クァンファムン）にある。通信使特別展の会期は、罷免（ひめん）された前大統領の後任を選ぶ大統領選とほぼ重なった。通りには、候補者ポスターの掲示板が掲げられ、広場では、候補者が選挙カーを入れ替わりで止めて、演説会をしていた。

大統領選で対日政策は、大きな争点にはならず、特別展関係者は胸をなで下ろした。ただ、大統領選への出馬が取りざたされていた

保守系のソウル市長は、特別展開会式への参加を見送った。市が管轄する博物館の特別展が政治問題化することを避ける動きと受け止められた。

「アンニョンハセヨ（こんにちは）」

そんななか、5月のある日、博物館の研修室に元気な声が響いた。市内の金華小学校の4年生21人が参加した子ども向けの研修プログラムだ。会期中に計10回約200人が参加した。

往時の長旅しのび関心高める

講師の女性がひげを着けて国王に扮し、子どもたちに通信使としての役割を与える。「出発前に両親に手紙を書きましょう」

漢陽（ハニャン）（ソウル）から江戸（東京）は直線距離で約1150キロ。当時は、陸路と海路を交互に進み、往復に半年から11カ月もかかる旅だった。

正使役の子はこう書いた。「ご両親様、我が子3人、そして親類のみなさん。必ず生きて帰ってまいります」。悲壮な表情に、国王が「あまり悲しそうにならなくていいよ」と声をかけると、正使になりきって「陛下、ありがとうございます」と応じた。会場で自分が扮する役に関係する絵画や文書を探してクイズに答え、関心を高めていく。

子どもたちの多くは、家族旅行などで日本を訪れたことがあり、日本への関心も高い。男子の柳陳錫（ユジンソク）（11）は、7歳の時に大阪を訪れた。「また行って、ラーメンを食べたい」と話した。

女子の李河恩（イハウン）（10）は、「韓国と日本が、（過去にも）仲がよかったことを知らなかった。それを知ることができました」と話す。家族旅行で大分県と福岡県に行ったことがある。日本といい関係を築くには何が大切ですかと聞くと、ひと言「疎通（ソットン）（意思疎通）」と答えた。

「若者に効果ない反日カード」

日本への関心の高さはデータからも読み取れる。韓国からの訪日観光客数は24年、約881万人。日本から韓国への観光客数約322万人の2倍以上に達した。経済力も訪日を促す理由だ。1人当たり名目GDP（国内総生産）は23年に3万5千ドルを超え、韓国が日本を上回った。

東京大名誉教授の木宮正史（65）は「韓国社会の主流である40代後半から60代は、日韓を上下や善悪という目で見ると傾向があり、コミュニケーションが難しい。一方で20代、30代は、生まれた時から、日韓を同じような社会とみている」と指摘する。

ソウル市立大名誉教授の鄭在貞（チョンジェジョン）（73）も「日韓が互いに対等な関係になったいま、政治家が反日カードを使っても若い世代に効果はない」とみる。「若者が年間200万～300万人行き来すれば、互いの実情を知り、政治的な事情に左右されない日韓関係を作れる。大学の留学や単位交換を広げ、卒業後の就職なども互いに自由にすればいい。それこそが21世紀の通信使になるはずだ」=敬称略

この記事を書いた人



石合力
編集委員

+ フォロー

専門・関心分野

国際政治（核問題、中東など）、芸術と社会

コメントプラス

[注目コメント試し読み](#) >



成川彩（韓国在住 文化系ライター）2025年8月27日0時50分 投稿

【視点】 周りでも日本へ旅行に行ってきたという韓国人が非常に多く、「店員が親切」「街がきれい」「ご飯がおいしい」と、好印象を抱く人が大半です。 [...続きを読む](#)

朝日新聞のデジタル版に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.

朝日新聞

幕府の思惑超えてつながった民衆の力 歴史の光と影、 二つの戦後処理

有料記事

編集委員・石合力 2025年8月27日 17時00分



美具久留御魂神社にある朝鮮通信使・川御座船の絵馬（左上）と宮司の青谷忠典＝大阪府富田林市、石合力撮影 

現場へ！ 朝鮮通信使にかける夢（3）


大阪府富田林市にある美具久留御魂（みぐるみたま）神社の下拝殿から4月、朝鮮通信使の絵馬が慎重に下ろされた。縦98センチ、横189センチの木製で、元禄8（1695）年に奉納された。淀川をさかのぼる川御座（かわござ）船が3隻ずつ上下2段に描かれている。韓国のソウル歴史博物館で開かれた特別展のため、初めて国外に出た。

特別展の目玉作品の由来は長年、忘れられていたが、在野の研究者で通信使に関する資料や美術品の収集、調査に当たった辛基秀（シンギス）（1931～2002）が1984年に「発見」し

た。淀川から離れた地域でも民衆の間で、通信使への高い関心があったことを示す作品だ。

辛は、慶尚南道で生まれ、生後まもなく両親と京都に渡った在日コリアン2世。映像作家としても活動し、社会派の映画監督大島渚（なぎさ）らとも交流した。日本の植民地支配や戦後処理のあり方に鋭い視点を持ち、戦前の在日朝鮮人の足跡を描いた映画「解放の日まで」などの作品がある。



朝鮮通信使の研究者でコレクターでもあった辛基秀 = 家族提供 


辛は50年代、図書館で手に取った本で朝鮮通信使の史実を知る。豊臣秀吉による朝鮮侵略の後、10年を経ずして国交が回復し、善隣友好のシンボルとなった通信使による外交は、未解決の問題や次世代への偏見・差別を残した第2次世界大戦後の戦後処理とは大きく異なるものだった。その後、全国各地の寺社や旧家を訪ねて資料を集め、埋もれた歴史に光を当てていく。

「大学の先生でなく辛さんだから」

今回、特別展の実現に奔走した次女の理華（61）は父の言葉を覚えている。「歴史の明るいところを照らすことで、暗いところがおのずと立ち上がってくる」

朝鮮通信使の研究者で対馬博物館館長の町田一仁（69）は89年、山口県下関市立博物館での展示に辛のコレクションを借りようと大阪まで交渉に行き、初めて辛に会った。「ちょっと寄っていこう」と酒に誘われたが、貸すとは言わない。緊張気味に尋ねると辛は言った。「貸すから君と飲んでい」



辛基秀と交流が深かった対馬博物館館長の町田一仁。後方右は、金石城の櫓（やぐら）門（復元）＝長崎県対馬市、石合力撮影 

人づきあいを好み、毎晩のように酒を飲んだ辛は、午前3時ごろに起きて、図録や本の執筆を続けた。町田は言う。「収集作品を独り占めせず、展覧会や映像、平易な文章で世の中に広く紹介した。大学の先生ではなく、辛さんだからできた」

対馬、瀬戸内など通信使がらみの土地をくまなく回った行動力と人脈は、NPO法人「朝鮮通信使縁地連絡協議会」（縁地連）の設立、そしてユネスコ「世界の記憶」登録へとつながった。町田は、縁地連の理事長として、辛の思いを引き継ぐ。


ソウルの歴史博物館では、会期中、辛が製作したドキュメンタリー映画「江戸時代の朝鮮通信使」（79年）の上映会や、日韓研究者らのシンポジウムも開かれた。

「Kポップ歌手とファンのよう」

辛が収集した作品の多くは大阪歴史博物館が収蔵し、「記憶」にも11件14点が登録された。特別展にも「朝鮮通信使御楼船図」など28点（「記憶」登録は7点）が出展された。その一つ、元禄期の画家・英一蝶（はなぶさいっちょう）筆の「朝鮮通信使小童図（しょうどう

ず)は、辛が最も気に入っていた作品だ。町人から紙を広げて揮毫(きごう)を求められた通信使の小童が、馬上から執筆する姿を描いている。




特別展の会場で、英一蝶筆の「朝鮮通信使小童図」を子どもたちに説明する辛基秀の次女理華。民衆と通信使のつながりを描き、コレクションの中で父が最も気に入っていたという。絵馬で描かれた第7次(1682年)に続く第8次(1711年)の通信使を描いたものだ=ソウル、石合力撮影 

理華は言う。「Kポップの歌手やヨン様にサインを求めるファンのよう。父はこの絵に、幕府の思惑を超えて通信使とつながる民衆の力を見ていた」

町田とともにシンポに出席した大阪歴博館長の大澤研一(63)はこう語った。

「辛さんは、国家間の良好な関係を実現しただけでなく、人間どうしの真の交流によって相互理解をもたらしたことに通信使の価値を見いだした。文字だけでなく、通信使を直感的に受け止められるビジュアルの資料こそ辛基秀コレクションの真骨頂だ」=敬称略



会場で、美具久留御魂神社の絵馬を見る辛基秀の次女理華（右）、隣は駐福岡総領事を務めた元外交官の徐賢燮（ソヒョンソプ）。日本との関わりが長く、1990年に盧泰愚（ノテウ）大統領（当時）が来日した際、宮中晩餐会のスピーチで、雨森芳洲の「誠信外交」に触れるよう進言した＝韓国・ソウル歴史博物館、石合力撮影 

この記事を書いた人



石合力
編集委員

+ フォロー

専門・関心分野

国際政治（核問題、中東など）、芸術と社会

朝日新聞のデジタル版に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.


朝日新聞

川御座船の川上り、300年前を追体験 縁地の点を結び きょうだいに

有料記事

編集委員・石合力 2025年8月28日 17時00分



大阪から京都に向けて淀川を上った川御座船のルートを再現する船内で、朝鮮の歌や踊りを披露する人たち=5月14日、石合力撮影 


現場へ！ 朝鮮通信使にかける夢（4）

大阪・夢洲で開催中の大阪・関西万博に合わせ、朝鮮通信使の「復元船」が5月、韓国・釜山から当時のルートをたどって大阪港に入港した。

その数日後、日韓の通信使関係者約60人が、淀川に面した大阪市の十三（じゅうそう）船着き場に集合した。通信使は、川御座（かわござ）船で淀川をさかのぼり、京都に向かった。そのルートを観光用の川船で再現する初めての試みだった。河口から約10キロ上流にあ

る淀川大堰（おおぜき）に、水位を調整する閘門（こうもん）が3月に完成し、上流への通行が約半世紀ぶりに可能になったのだ。



大阪・十三から京都に向けて川船で出発する朝鮮通信使の関係者=大阪市、石合力撮影 


ソウル歴史博物館の特別展に「川御座船図」を出展した大阪歴史博物館館長の大澤研一（63）は、船の前方に立ったまま、水面からの眺めを興味深く見つめていた。

水深1メートルの浅瀬もあり、先行船がさお竹で深さを測りながら、ルートを探る。コンクリート護岸がないところでは、当時と変わらない光景が広がる。大澤は「枚方（ひらかた）より上流は、かなり水深が浅く、川底の浚渫（しゅんせつ）が必要だった当時の淀川と、迎える日本側の苦労を迫体験できた」と話す。

まるでタイムカプセルのよう

韓国の朝鮮通信使学会長で釜慶（プギョン）大名誉教授の朴花珍（パクファジン）（68）は「タイムカプセルに乗って、300年前にさかのぼるようだ」と感激気味に話した。



枚方より上流の淀川。コンクリート護岸のない自然な風景が広がる。江戸時代と変わらぬ光景を船上から見つめる大阪歴史博物館館長の大澤研一（右）＝5月14日、石合力撮影 

淀川の川上りクルーズは、大阪の市民団体「水都大阪を考える会（水都の会）」が企画した。日本側参加者の多くは、通信使ゆかりの地で組織するNPO法人「朝鮮通信使縁地連絡協議会」（縁地連）のメンバーだ。1995年に結成され、全国の自治体、民間団体と個人が加わる。通信使が江戸に向かう途中に立ち寄った各地で、行列の再現や地元資料の発掘研究に当たる。

川御座船は金箔（きんぱく）を施した金具や漆塗りの豪華なつくりで、姫路藩が使った2階建ての「船屋形」（重要文化財）部分が神戸市の日本庭園相楽園に唯一残る。川御座船を復元して、大阪と京都を船で結ぶ新たな観光資源にできないか。関係者の夢は膨らむ。



川御座船として使われた2階建ての「船屋形」(重要文化財) = 神戸市、石合力撮影 


縁地連の初代理事長を務めた松原一征（かずゆき）（80）は、長崎・対馬出身の実業家だ。博多と対馬を結ぶ海運会社を立ち上げ、今は会長を務める。通信使で島興しをと考えたのは30代半ば。私財で通信使資料の収集を進め、コレクションを対馬朝鮮通信使歴史館に寄託した。特別展では、儒学者雨森芳洲（あめのもりほうしゅう）の肖像画が、図録に掲載された。

「縁地の点を線に結び、面にしかける途中です。日韓の縁地どうして関係が深まれば面が円になる。両国は大事なきょうだいになります」

今こそ通信使の意義を世界に

2017年のユネスコ「世界の記憶」登録の申請では、日本側の責任者を務めた。韓国側の責任者で釜慶大総長を務めた学者、作家の姜南周（カンナムジュ）とは、通信使を通じて長年、家族ぐるみの付き合いだった。



日韓国交正常化60周年と大阪・関西万博に合わせ、韓国・釜山から大阪南港に寄港した朝鮮通信使の復元船=2025年5月13日午前10時42分、大阪市住之江区、仙道沓撮影 

松原は当時を振り返る。「政府間で進めたら互いにメンツを譲らず、歴史認識も一致しない。登録できた大きな要因は、私と姜さんの民間どうしで進めたからです」

姜は、いつかユネスコ本部のあるパリで通信使行列を披露したいと話していたが6月に85歳で急死した。松原は登録から10周年となる2年後に向けて、その思いを実現したいと考えている。

「通信使は、武力によらず話し合いで解決してきたからこそ平和な時代を築けた。世界中で国粹主義、排斥主義が高まるなか、通信使の意義を日韓だけでなく、世界のみなさんにも伝えたい」=敬称略



朝鮮通信使の「復元船」の大阪来港を祝う歓迎式=2025年5月13日午前9時41分、大阪市住之江区、仙道沓撮影



大阪府富田林市の美具久留御魂神社にある朝鮮通信使の川御座船を描いた絵馬。今回、初めて韓国で展示された。淀川の通信使ルートから離れた場所でも、民衆の関心が高かったことを示す資料だ=石合力撮影

この記事を書いた人



石合力
編集委員

+ フォロー

専門・関心分野

国際政治（核問題、中東など）、芸術と社会

朝日新聞のデジタル版に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.

朝日新聞

ソフトパワーの時代につなぐ文化の力 凍る川の下で流れが奏でる歌は

有料記事

編集委員・石合力 2025年8月29日 17時00分



朝鮮通信使との関わりが深い対馬。通信使の行列を再現する取り組みの先駆けとなった＝長崎県対馬市、石合力撮影 

現場へ！ 朝鮮通信使にかける夢（5）


横浜市内の劇場で7月、韓国の舞踊劇「舞、朝鮮通信使 柳馬図（ユマド）を描く」が日本初演された。国交正常化60周年を祝い韓国国立釜山国楽院が公演した。

原作は、朝鮮通信使に加わった無名の画家を描いた小説「柳馬図」。歴史家で作家の姜南周（カンナムジュ）が書いた。

「柳の下にいる馬を描いた彼の絵は、彼が行ったことのない高松市の法然寺で偶然見つけた。なぜなのか。寺まで行って調査しましたよ」

5月に釜山で記者と会った際、姜は執筆の経緯を楽しそうに振り返った。




横浜市で公演された韓国の舞踊劇「舞、朝鮮通信使 柳馬図を描く」の1シーン。姜南周が書いた小説にちなむ作品だ＝韓国・釜山国楽院提供 

姜は、釜慶（プギョン）大総長や釜山文化財団代表理事を務めた文化人で、日本側の「朝鮮通信使縁地連絡協議会」（縁地連）とともに長年、通信使の再興や研究に関わった。「朝鮮通信使に関する記録」が2017年にユネスコ「世界の記憶」に登録された際には、韓国側で中心的な役割を務めた。

「枝葉ではなく幹を見ていた」

政府を通さない申請だったが、日本側で交渉に関わった対馬博物館館長（長崎県）の町田一仁（69）には当初、韓国側の学者らは日本に屈しないという立場を背負っているように見受けられた。「自分たちが知日派ではなく、親日派とのレッテルを貼られかねないとの思いがあったのでしょう」

この記事は  有料記事です。残り882文字

 有料記事は、次の決済日まであと46本読めます

[続きを読む](#)

この記事を書いた人

石合力

 フォロー



編集委員

専門・関心分野

国際政治（核問題、中東など）、芸術と社会

朝日新聞のデジタル版に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.

